長野県立歴史館のリニューアル案について

- 開館から30年が経過し、施設・設備等が老朽化。貴重な歴史資料の収蔵スペース逼迫も顕著。
- 常設展示は、体験を重視した復元展示が主体。展示資料は随時見直しているが、大幅な見直しは困難。
- 今後、①常設展示の全面リニューアル、②展示室内の温湿度管理など展示環境整備、③展示室以外の老朽化対応も含めた機能充実に向けた取組が必要

県立歴史館リニューアル 今後の取組の方向性

令和8年には長野県150周年を迎えるほか、新たな長野県 史の編さんに着手することなど、長野県の歴史を見つめな おす契機となることに加え、本年3月に策定した長野県D Xアクションプランに基づく県立歴史館のDX化などの新 たな課題も生じていることから、改めて、将来に向けた歴 史館のあり方について検討が必要。県史編さんによる増加 分を見込んだ歴史資料の必要収蔵量や、施設・設備の老朽 化の実態など、歴史館のあり方検討の基礎となる事項につ いて、今年度から順次調査していく

%R7.6.26

長野県議会6月定例会一般質問 自民党竹内正美議員からの質問への知事答弁

① 常設展示の全面リニューアル

○常設展示リニューアルの方向性※総合情報課

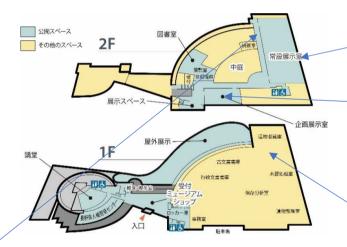
論点1 テーマ型と通史型の比較検討

論点2 環境復元展示と収蔵資料展示スペースのあり方

論点3 映像機器とコンテンツ案に係る検討

論点4 バリアフリー化、多言語化、乳幼児対応

※常設展示リニューアルのあり方検討(R5)





② 展示環境のリニューアル

- 常設展示室の環境整備※総合情報課屋根天井の修繕、空調設備の更新(今後検討)
- ○企画展示室の環境整備※総合情報課 空調設備の更新(R7 設計、R8で更新丁事)

③ その他の機能充実に向けた取組

- ○収蔵スペースの拡張※考古資料課、文献史料課考古資料の収蔵スペース等の拡張(今後検討)
- ○中長期修繕・改修計画(R8~R17)※管理部、学芸部 劣化度調査による修繕必要箇所の把握等(今後検討)
- ○デジタル化による情報発信※総合情報課 館蔵資料の電子データ化を進め利活用促進(今後検討)
- ○照明器具の LED 化※管理部、学芸部 昭明設備の LED 化(R 7 設計、R8 丁事)※含展示室